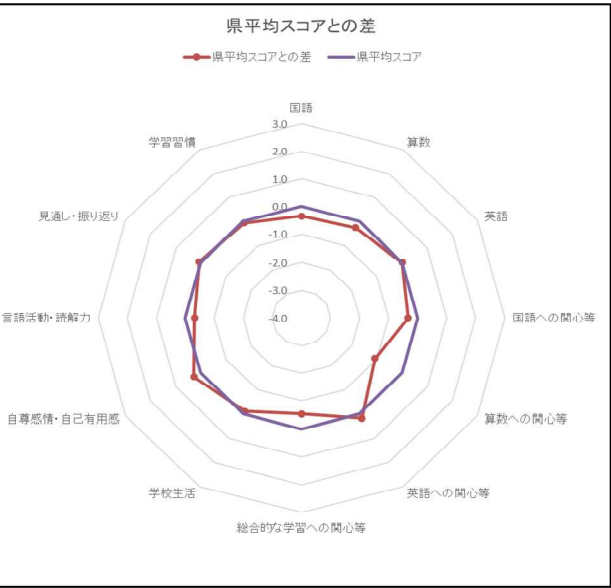


令和元年度 島根県学力調査結果及び分析・対策(松江市立八雲小学校)

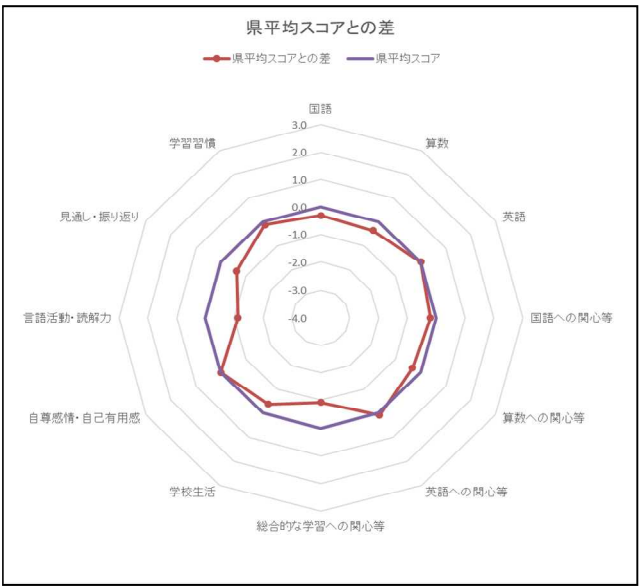
(1) 学力調査結果から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	国語	○漢字の読みについての正答率は9割を超えている。 ○物語文において、描写をもとに心情をとらえながら読むことができている児童の割合が高い。 ●ローマ字の書きについての正答率が低い。 ●複数の情報から大事な事柄を抜き取ることができにくい。 ●漢字の意味理解が十分でない児童の割合が高い。	・月に一回の書き取り会の他に、ミニテストを行う等、漢字やローマ字の学習を振り返る機会を設ける。 ・パソコン等を使って、目的をもってローマ字を使えるようにしていく。 ・授業の中で、複数の文章を読み比べて意見を述べたり、条件に合った文章を書く学習を積み重ねられるようにする。 ・要約の仕方を学年に応じた内容で指導し、使えるようにしていく。 ・既習漢字を使って文章を書く指導を日常的に行う。
	算数	○数量関係の設問については、やや高い正答率である。 ○表や図、数直線を用いて考える問題については、正答率が高い傾向がある。 ●小数の意味理解が十分でなく、正答率が低い傾向がある。 ●記述式の問題の正答率が低く、無解答の児童も多い。	・月に一回の計算会に、前学年、前学期、前単元の学習内容を組み込んで、復習できるようにする。 ・授業の中で、問題場面を図に表して読み取る活動、式の意味を説明する活動を取り入れる。 ・自分の考えを説明したり、ノートに書いたりする学習を通して、説明する力を身に付けられるようにする。
6年	国語	○漢字の読み、書きともに正答率が高い。 ●ローマ字の書きについての正答率が低い。 ●資料を引用して、目的や意図に応じた文章を作成することについて困難を感じている児童の割合が高く、無解答の児童も多い。 ●文法の定着が十分とは言えない児童の割合が高い。 ●条件に合わせて書くことに困難を感じている児童の割合が高い。	・問題文を読むときに、線を引いたり、印をつけたりして思考させることで、問題を丁寧に解く経験を積ませる。 ・資料を引用したり、図表やグラフを用いたりして、目的や意図に応じて文章を書く経験を増やす。 ・授業の中で、語句の係り方に着目して、文を読んだり書いたりする学習を繰り返して、習熟できるようにする。 ・要約の練習をして、要点をおさえながら読む力をつける。
	算数	○計算のきまりをよく理解している児童の割合が高い。 ○図と式を関連付けて考える力が定着しつつある。 ●2つの数量を比べて考えることや割合の見方の理解が十分でない児童が多い。 ●資料から情報を読み取り、論理的に考え解決することに困難を感じる児童が多い。	・今後も計算会の中に計算のきまりを活用する問題を組み込み、基礎・基本の定着を図る。 ・授業の中で、問題場面を図に表して問題構造を読み取る活動、ペア学習、グループ学習等で一人一人が意味を説明する機会を大切にすること。 ・日常の事象など、児童にとって身近な問題を扱うことで、情報を読み取ったり、筋道を立てて考え説明したりする活動への苦手意識を減らしていく。

(2) 各学年・各教科の調査結果チャート



6年



(参考) 平均正答率

		国語	算数
5年生	本校	54	51
	松江市	61	60
	島根県	60	58

受検者数
5年生 55 人

各スコアの範囲は-4から+3までで、島根県のスコアは基準値の0となっています。
スコアが0より大きければ大きいほど、島根県よりも「当該教科で平均正答率が高かった」、あるいは「当該カテゴリで肯定的回答が多かった」という結果になります。

(3) 生活・学習に関する意識調査から見られた傾向

		成果と課題(○:成果、●:課題)	対策
5年	授業改善に関わる事項	○自尊意識が高い児童や将来の夢や希望をもっている児童の割合が高い。 ○8割の児童が外国語活動の学習を好きと回答している。 ●半数近くの児童が算数が好きではないと回答している。 ●総合的な学習の時間において、自分で課題を立てて情報を集めたり、整理したり、発表したりしていると回答した児童の割合が低い。	・算数科において、児童の実態把握と授業改善を行う。専科教員と担任が連携して補習を行う等、きめ細やかな指導を行う。 ・総合的な学習の時間の計画を検証し、自ら課題を発見する学習過程についての授業改善を行う。
	家庭学習に関わる事項	○地域の行事への参加率が高く、地域への関心も高い。 ○平日の家庭学習時間が2時間を超える児童が2割以上いる。 ●メディアやテレビゲームに触れる時間が長い。平日は、3割以上の児童が2時間以上テレビやビデオを見ていると回答している。 ●1時間以上学習している児童の割合が県平均より低い。	・学校、保護者、地域が連携して、メディアの利用法についての指導を行う。保護者にも協力を仰ぎ、規則正しい生活リズムの中でのメディアとの適切な付き合い方について考えていく。 ・家庭での自主学習の進め方について、月に1回程度は全体指導を行うとともに、児童の実態によっては個別に助言をする。
6年	授業改善に関わる事項	○将来の夢や希望をもっている児童の割合が高い。 ○8割の児童が外国語活動の学習を好きと回答している。 ●約4割の児童が算数が好きではないと回答している。 ●授業の中で話し合い活動やグループ学習があまり行われていないと感じる児童の割合が高い。	・算数科において、児童の実態把握と授業改善を行う。専科教員と担任が連携して補習を行う等、きめ細やかな指導を行う。 ・ペア学習、グループ学習の場を取り入れた授業を増やし、課題解決の達成感や連帯感が実感できるようにする。 ・主体的に取り組める課題設定をする。
	家庭学習に関わる事項	○地域や社会への関心が高い。 ○平日に一日10分以上読書をしている児童の割合が高い。 ●平日の学習時間が1時間を下回っている児童が5割程度いる。 ●家で学校の宿題や復習をしていない児童の割合が高い。	・家庭での自主学習の進め方について、月に1回程度は全体指導を行うとともに、児童の実態によっては個別に助言をする。 ・宿題や復習をすることの意義について伝え、引き続き、きめ細かな指導を継続していく。

(4) 生活・学習に関する意識調査の結果

